

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970400226		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム 左右山		
所在地	南国市左右山170番地1号		
自己評価作成日	平成27年12月22日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

より良い地域密着型サービスを目指す為に、事業所の基本理念3本柱の「人間としての人権を尊重」「家庭的な雰囲気」「地域の中で生活が出来る」を基本とし、日頃の生活の中で、利用者個々やご家族様等の希望や要望を聞き取り、それらをケアや支援へと繋げ、利用者個々の能力に合わせて、出来る事や散歩などを、各ユニットととも交流しながら行う事によって、日々の生活への生き甲斐ややり甲斐、楽しみを持って頂くようにしている。また、3地区の民生委員や地域の方々の協力とともに、地域の福祉施設や小学校の行事への参加や交流をするなど、地域資源を活用しながら、地域との交流を継続していけるよう活動を続けている。その他に、毎月、研修担当による認知症に関する事や接遇などの研修を計画・実施し、職員の介護への知識と技術の向上ができるようにしながら、個別ケアへ繋がられるように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JiryosyoCd=3970400226-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの居間や食堂などは日当たりが良く、外に布団を干して夜間、利用者が安眠ができるようにしている。室内から見える景色は自然の変化を感じさせ、利用者の気持ちを和ませている。近隣の施設や小学校との交流も続けられており、近所に住む民生委員が運営推進会議や災害訓練への参加をはじめ事業所の運営に協力的であり、地域との良好な関係が保たれている。
「人間としての尊厳」、「家庭的な雰囲気」、「地域の中での生活」を基本とする事業所の理念は、日々の介護サービスを提供する過程で、自然に発揮され職員に浸透している。職員は日々の利用者との関わりを大切に、利用者のやりたい事や想いに添ったケアができることを望んでおり、自発的に外部の研修に参加して、ケアの質向上や自らの力量を高めようとしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：1番地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、地域に根ざした施設を念頭に置きながら、職員一人一人が理念を理解して日常業務を行っている。	「人間としての尊厳」、「家庭的な雰囲気」、「地域の中での生活」を理念の基本とし、居間に利用者の手作りの貼り絵や造花等を飾って家庭的な雰囲気をつくり、利用者の尊厳を守るため、職員の言葉遣いに注意している。理念は各ユニットに掲示し、研修により共通認識を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の行事への参加や防災訓練への参加などを行い、地域との繋がりが継続できるように支援をしている。	小学校の運動会への招待や、小学生の社会科見学の受け入れ等の交流が続いている。地域の防災訓練には職員が参加し、近隣施設の夏祭りへ利用者と職員が参加したり、事業所の夏祭りではたこ焼きなどを出店し、住民や家族と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事等での地域交流をもとに、事業所側から地域の方々への認知症への理解を深めて頂けるよう支援をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所での活動内容や取り組み、近況報告などを行いながら、今後の運営について市の職員・民生委員・家族様からの意見を取り入れ、サービス向上に努めている。	会議では資料を添付して活動報告を行い、意見を交換している。ただし、課題の検討や意見、職員の研修状況、利用者のイベント参加等、項目と関連した活動内容が会議録からは分かりにくい。また、家族の参加が少ない。議事録は所内で閲覧できるようにしている。	会議録では、事業所の報告や対応の項目ごとに、参加者の質問・意見・要望などを記録するなど、参加できない家族にも意見交換や事業所の活動内容が分かりやすい工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から運営面、利用者等について、密に連絡・連携を取っており、今まで以上に良いサービス提供が出来るよう取り組みを継続している。	運営推進会議に市の担当課や福祉課から出席があり、連絡や連携ができています。介護保険課や地域包括支援センター等とも必要時に相談し、助言を得ている。担当課に働きかけ、市内グループホームの経営者と意見交換を行ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、施設内外の研修へ参加して身体拘束への理解を深め、ケアの中でも身体拘束がない支援を行っている。	外部研修に積極的に参加し、内部研修で身体拘束や虐待の伝達講習を行っている。同じテーマでほぼ毎月繰り返し研修し、全職員に周知している。言葉による利用者の行動制限などに気づいた時は、職員同士で注意し合い、転倒等の危険性がある利用者には、家族の了解を得てセンサーを設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を実施し、日常のケアの中で利用者に対しての職員の言動などにも注意をしながらケアをし理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで権利擁護や制度について理解を深めるとともに、現在、成年後見人をされている利用者が一人暮らし、状況に応じて後見人との密な連携・話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、退所、契約内容の改定等には、必ず利用者及び家族へご説明し理解を得ている。また、県外のご家族様についても電話や郵送にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日常生活内での関わり等で意見や要望を聞き取り、運営推進会議等で発表し、そこから得た内容を運営に反映させている。	家族の来所時に利用者の体調や症状、運動等気になることを聞いて対応している。家族の要望で肘付きの椅子を設置したこともある。来所の多い家族は月1回程度、少ない家族は年2回程度来所し、その都度家族の意見・要望を聞きケアに反映させている。	家族が自由に意見交換できる「家族会」の場を設け、「家族会」としての質問や要望などを運営推進会議で協議し、議事録の閲覧や郵送によって、参加できない家族とも情報を共有出来ることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会やユニット会を行い、運営やケア等について意見や提案を聞く機会を設けており、反映させている。	月初めにユニット別に職員会を行い、利用者のケアや運営に関する話し合いを行っている。月末にはユニット合同の職員会を行い意見を共有している。職員の個別面談は実施していないが、休暇希望や相談事がある場合は代表者に個々に相談できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職員個々の能力に応じて交付金の支給、異動等を行う事によって対応を行っている。また、意見等があった場合はその都度対応しながら、職場環境の整備もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修への参加、施設内でも毎月管理者・ケアマネジャー・職員で研修を実施し、知識と技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する研修へ参加した時などに、他事業所との交流及び情報交換が出来るようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接話す機会を持ち、聞き取りが難しい方は、基本情報やアセスメントに基づきながら信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前や導入時に、ご家族様から出来る限り今後のサービスについての不安や要望などを聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族を含めてカンファレンスを開催し、これからのサービスについての話し合いを行い、可能な限り本人や家族が納得・安心出来るサービス導入が出来るように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今まで築きあげた生活を営みながら、残存能力の活用により少しでも楽しみのある生活ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が面会に来られた時や電話があった時などは、ご本人の日頃の様子やケアの確認なども行い、情報や状況の共有が出来るように努めている。また、電話の際は本人と家族が話せるようにもしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人や家族の了承を得ながら、ご近所の方や友人の方が来所された時は、お茶を飲みながら一緒に過ごせるように対応している。</p>	<p>行きつけの美容院や墓参り等には、家族が協力して連れて行っている。友人の訪問があれば、話しやすいよう気を配り、散歩の時に近所や馴染みの人に出会えば挨拶を交わし、関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者一人一人の生活環境を把握しながら、配席にも配慮や工夫をしている。朝のレクリエーションやデイルームでの集団レクリエーションを介して、利用者同士の関係性が良好に構築出来る支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所される場合には、次に行かれる施設等に対して必要と思われる情報を提供し、安心出来る生活の確保に向けて支援をしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報やアセスメントにより、生活歴を基にご本人の希望を職員同士で把握しつつケアが行えるよう努めている。</p>	<p>職員は日頃のケアを通して、利用者の言葉等から希望や意向を把握し、伝達ノートで他の職員に申し送ったり、ユニット会で情報交換して共有している。伝達ノートは、閲覧のサインをして周知を確認しており、利用者の要望をプランに取り入れている。</p>	<p>伝達ノートで確認された各利用者の思いを、個人ファイルにも記載して、よりその人らしい全体像が分かるように、個人別に蓄積していくことを期待したい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居される前の事前面接時に、ご本人や家族、サービス提供先の施設などから情報を収集し、可能な限りなじみの暮らしに近づけるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りなどで利用者個々の心身状況を把握し、日々のケアについてや体調やケアの課題について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会での話し合いや、課題が発生した際など状況に応じてモニタリングなどを行い、介護計画へ反映している。	各利用者の担当職員が家族へ手紙を送ったり、電話連絡をして意向等を確認している。ユニット会等で利用者の情報を交換し、3カ月毎に見直し、チームで介護計画を作成している。また、利用者の退院後、家族の意向を汲んで、歩行訓練を組み込むなど、随時の要望や変化に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は日々のケアの中での状態等を記載し、職員間で情報を共有、状況に応じて実践内容の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者や家族との話し合いの中で出てくる要望や希望にも、出来る限り対応できるように努めている。受診や買い物代行なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校の運動会の見学、地域の防災訓練への参加などを行いながら、地域と協働しながら安心して暮らしていけるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はご家族様のご協力で、かかりつけ医への受診の支援をして頂いている。受診後の結果等もお聞きして、今後のケア内容へ反映できるように支援をしている。	利用者は入居前のかかりつけ医に家族と共に受診している。家族の都合によっては、管理者等が同行している。かかりつけ医の希望が無い場合や、突発的な発症の場合は協力医療機関を受診している。受診結果は、個人ファイルに記録して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していないが、服薬や体調の変化等の情報に関しては、その都度かかりつけ医へ連絡・報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先には情報提供を行い、入院先・家族とも良好な関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていないが、利用者の状態に応じて、家族や病院側と話し合いを行い、重度化や終末期に対してすぐに対応できるように努めている。	利用者の状態に応じて、事業所が対応できるケアについて説明している。現在は看取りは行っていないが、今後は協力医療機関や訪問看護との連携によって、重度化や終末期の支援ができるように対応を考えることにしている。	重度化や終末期の支援ができるよう、マニュアル作成や職員の研修への参加、医療機関等との話し合いに、継続して取り組んでいくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にて防災訓練を実施し、地域で実施される防災訓練等にも参加を行い、訓練や知識及び技術を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成の他、施設実施及び地域で実施されている訓練に参加する事によって、職員の災害時対応への能力を身につけながら地域との協力体制に努めている。	年2回、火災の避難訓練を実施し、消防署の協力や民生委員が参加して、担架を使った訓練等を行っている。地域の災害訓練には、事業所が地域の避難場所になっていることもあり、職員が参加し避難方法を学んでいる。水・食糧や紙オムツ等は1週間分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社会性にわたり、利用者個々の尊厳を守り、言葉一つ一つに対してや行動に対してもプライバシーが保てるように配慮をしている。	職員は外部研修や施設内研修で、利用者の尊厳について学習している。利用者は人生の先輩であることを認識し、人格を尊重した対応を大切にしている。入浴の介助方法についても家族の協力を得て、本人の納得がいくケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、働きかけを実施しつつも、本人と話し合う中で希望に沿って変更も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いに寄り添える介護を目指し、業務に追われるのではなく共に暮らしているケアを身につけて行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望の服装も家族と相談しながら支援をしている。また、近隣の理髪店も利用し散髪もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒にテーブルで、家庭的な雰囲気の中で食事ができるようにしている。料理でも利用者個々の好みや病状に合わせて、味付けや形態にも工夫をしている。	献立や食材は栄養バランスに配慮して業者に委託し、ユニット毎に薄味等に留意し味付けしている。利用者は食材の皮はぎ等を喜んで一緒に行き、職員は食事が楽しくなるよう言葉をかけている。月1回の行事の食事会で、利用者の希望を参考に季節の食材を使うなど変化を持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、栄養バランス、水分量は十分に把握できている。また、利用者の状態に応じて食事形態にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが習慣となるように声を掛け、必要な介助を行いながら清潔保持と義歯や自歯の状態を把握し、状態に応じて歯科受診も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導のみならず、必要に応じて排泄・トイレ誘導の声掛けを行いながら、自立に向けて実施をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、時間誘導でトイレでの排泄を支援している。誘導はその都度、他にわからないよう声をかけ、夜間は2時間毎に気を付けて、全居室に設置のトイレを使用している。オムツ使用の利用者が、布パンツに改善した例もあり、自立に向けて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動量などを念頭に置き、出来る限り服薬に頼らなく排便が出来るように支援をしている。それでも便秘気味の方は医師と相談をするなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の曜日や時間帯は決めているが、利用者の体調や気分により入浴出来ない時があり、その場合は、利用者の状態や希望に沿って別の日に入浴が出来る・時間帯をずらすなどの支援をしている。	バイタルチェック等体調を管理しながら、利用者の希望に沿って入浴を支援している。希望があれば毎日でも入浴可能であり、希望日以外でも汚れた時など、個々の希望に沿って支援している。浴槽に浸かる介助が困難な場合は、浴室を十分暖め、座位で湯をかける方法で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	加齢に伴い、活動量の減少・日中の疲労感等の減少で安眠が少なくなっているが、出来る限り運動量が増え、夜間の良眠に繋がるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタル面を常に確認しながら、服薬管理が出来ている。また、服薬時も職員間で確認しながらしっかりと服用できるように支援をしている。また、職員も薬の作用・副作用についても研修等を行いながら、理解を深めるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の能力に合わせた、作業や家事活動への参加が出来るように工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て外出の機会を設け、施設外への散歩も積極的に行っている。また、近くのお店への買い物なども出来るように検討していく。	午前中、天気の良い時には車椅子の利用者も一緒に散歩に出かけている。気候の良い時期は、近くの公園に花見に出かけたり、あじさいを見に行っている。20人乗りの小型車を借り上げ、ほとんどの利用者が一緒に、遠出を楽しむ機会も持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者の金銭の所持はしていないが、外出先などで、買い物をする際には職員の付き添いやご家族の協力を得て使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、いつでも電話ができるようにしている。また、家族や友人・知人等から電話があった場合でも取り継ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるように、季節毎にホールや居室などで飾り付けなどを行っている。	玄関は段差が殆どなく吹き抜けで、廊下も幅が広い。居間には季節の花が生けられ、利用者と一緒に作った折り紙や塗り絵、造花を飾って和みのある空間にしている。ワンフロアの居間と食堂は広くて明るく、見晴らしも良く、畳コーナーの床の間が家庭的な雰囲気をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者とのトラブルがないように配慮に工夫をし、居心地の良い居場所や空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が今まで使っていた家具等を、ご家族様の協力を得ながらお持ちして頂き、今までの生活感を崩さないように工夫を行っている。	各居室にトイレが設置され、馴染みのタンス、ベッドや寝具を使用している。タンスの上には利用者が好む造花や写真を飾っている。利用者が居心地良く過ごせることを大事にし、畳を希望する利用者は床にマットを敷いて、布団で寝起きしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活に支障が無いように、様々な工夫を行いながら、自立に向けて対応をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:2番地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の家庭的な雰囲気作り、人間としての尊厳の遵守、地域との交流を念頭に置き、職員一人一人が理念に沿ったケアを実践しており、状況に応じて職員同士で注意をしながら行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には近隣の方への挨拶や、地域の防災訓練への参加など行い交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や実践で得た認知症の理解と支援についての知識や技術などを、地域活動等への参加した際に情報交換などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所での活動内容や状況等を報告し、今後左右山での取り組みについての助言等を頂きながら改善などに取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からの運営及びケアについての報告・相談、また、南国市の地域包括支援センターとも利用者について相談等の連携を取りながら、今まで以上に良いケアや運営が出来るよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制限せず、一緒に施設外へ出るなどし、開放感をもって生活が出来るように支援をしている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての研修を行い、虐待についての知識や理解を深め、職員間でケアの中で気をつけながら虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内外での研修に参加をし、出来る限り学べる場を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に施設利用の説明、入居契約時、解約時、料金等改定時など、その都度家族様へ説明を行い、不明な点等にも分かりやすく十分に説明をして納得して頂くようにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来所時、運営推進会議へ参加された際になどに意見や要望を聞き取りながら運営に反映できるようにしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ユニット会や職員会内で、現場の意見や要望、今後の課題などを話し合い、反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員への介護職員処遇改善の交付金の活用や、職員会等で意見交換も行い就労意欲を高めている。また職員の能力にも応じて、異動など体制整備にも努めている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修への参加、毎月管理者やケアマネジャー、職員による施設内研修を開催し、能力の向上を図っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設外研修などで、他事業者との意見交換の場を設けたりと交流の機会を増やしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>不安な事、困っている事などに耳を傾け、少しずつ信頼関係を構築し安心出来るように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望や気持ちに耳を傾け、不安な事等にも親身になって傾聴し、今後のケアへの不安が少なくなるよう支援している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前面談時に本人や家族から得た情報等をカンファレンスで話し合い、「今必要なケアや支援」に他のサービス利用も含めながら対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>簡単な家事活動(洗濯物たたみや掃除など)や、一緒に作物を育てたりしながら共に生活をしている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気大切に、教え合ったり励ましあったり本人の意見を取り入れ、不安なく安心して生活して頂けるようにし、面会時も近況を伝えるとともに一緒にお茶などしてゆっくり出来るようにしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、友人、知人等の来所時は本人に確認して頂き、ゆっくり過ごして頂けるように雰囲気作りにも心掛けている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共同生活を行うものとして、行動・言動面でのトラブルが生じないように支援しながら、家事活動や行事への参加をして頂いている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も、家族の方とお会いした際に本人や家族について相談を受けるとともに、アドバイスやフォローをするなど、関係性を大切にしながら継続している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人一人の思いを日々の行動、言動、表情などから把握して、支援をするようにしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談などで知りえた生活歴や馴染みの暮らし等の情報や、基本情報シート等の活用する事によって現在までの本人の経過等の把握に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>バイタル面、精神面、身体面等への配慮をしながら利用者一人一人の生活リズムを把握する事で、利用者のペースにあったケアに努めている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の要望や意向を確認し、1ヶ月毎に計画作成者と職員によるモニタリング、3ヶ月毎のカンファレンスを通して介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の介護記録、申し送りなどによって情報の共有をしながら、介護計画の見直し及び実践を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>出来る限り本人やご家族様の希望・要望を聞き取り、利用者一人一人にあった対応ができるサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の小学校への訪問、行事への参加の機会を設ける、近隣の理髪店の活用などの地域資源の活用と交流をもっている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医に基本的にご家族様対応で受診を継続して頂き、受診の際には主治医への情報提供、連携を図っている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は配置していないが、状態変化等があった際にはかかりつけ病院へ連絡・報告し、指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時、医療機関と情報提供を行い、情報の共有に努めている。また、入院中は、スタッフ・管理者が訪問し、今後の方向性について話し合っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアは実践していないが、随時入居者の健康状態を把握し、早期の段階から家族や病院と話し合いをして、今後の重度化や終末期に対して対応出来るように努めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアル、緊急連絡網は職員がすぐに確認できるように設置している。また、地域で開催されている防災訓練にも参加して、急変や事故時などでの対応力、実践力を身につけられるようにしている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを作成し、職員へ周知を図っている。また、施設でも防災訓練、避難訓練なども実施し、地域の防災訓練への参加時にも、地域の方々と避難経路の確認なども行っている。今後は夜間を想定した訓練も実施していく。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の人間としての尊厳を守り、プライバシーの確保を職員同士で心掛けている。記録など個人情報の取り扱いにも周知徹底している。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の生活の中での会話で本人の思いや希望を汲み取り支援しながら、本人が自ら選択できるよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れを決めるのではなく、利用者個々のペースに合わせて自己決定を尊重。その日の体調や気持ちに配慮しながら支援をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に合わせた洋服なども何点か用意し、選んで頂けるようにしている。また、本人の希望に応じて、家族へ洋服や散髪などの依頼をして、出来る限りその人らしい身だしなみができるように支援している。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者個々の状態に合わせて、味付けや食事形態など工夫をしている。食事も職員と一緒に会話をしながら、楽しい食事タイムがもてるよう心掛けている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者個々の嗜好や疾病等に応じて、味付けや量などを調整している。日々の食事や水分についても、チェック表を活用しながら把握し支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員は研修等で口腔ケアの重要性を理解した上でケアを行っている。一人で出来ない利用者様については、職員が介助している。また、義歯や口腔内の状態に応じて歯科受診等の支援もしている。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、日中は声掛け等を行い、出来る限りトイレで排泄が出来る自立に向けた支援を行っている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日々の支援の中で、腸の働きを改善する運動を取り入れたり、天気の良い日は出来る限り散歩をする、1日の水分量にも気をつけるなど、便秘にならないように心掛けている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者個々の体調や希望に合わせて、入浴日を変更したり清拭などの対応をしている。入浴拒否が見られた場合は、無理強いせずに時間をおいて再度声掛けや入浴日を変えるなどの支援をしている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、散歩や体操などで活動量を増やしたりして安眠できるように支援をしている。また、気持ちよく安眠できるように、定期的に布団を干したりもしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者一人一人に処方された内服薬の目的や作用等の内容、主治医からの指示などを職員間で共有しながら、間違いがないように確認をして服薬支援に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>今までの生活習慣を継続できるよう、出来る範囲で洗濯たたみや掃除、作物への水やり等、役割が持てるよう支援をしている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候がよい日には散歩に行かれたり、季節の行事で花見やあじさい公園へのあじさい鑑賞など行い、季節感を味わって頂きながら、利用者同士での交流が図れるよう支援をしている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に利用者での金銭所持はしておらず、ホームでの管理をしているが、ちょっとした飲み物の購入等は出来る限り本人で購入できるようにその都度支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者様から希望があった際には、いつでも電話が出来るように支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには季節毎に職員と作成した作品を飾ったり、季節の花を飾ったりして季節感を味わって頂けるようにしている。また、温度湿度計を設置して、状況に応じて調整しながら心地よい環境作りをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースには一人一人が思い思いに過ごせるよう、ソファ席や畳コーナー等を設けている。テレビ前に広くスペースを取り、集まりやすい空間を作っている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで生活されてきた環境を出来るだけ崩さないように、使い慣れた家具等を持ち込み、使用して頂いている。また、必要な物については、その都度家族へ連絡を行い、依頼をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールには不要な物や危険物は置かず、安全な環境で自立した生活が送れるように支援している。トイレや居室、浴室なども、分かりやすいようにネームを貼ったりと混乱なく安心出来る環境作りにも努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:3番地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念をいつでも目にする場所に掲げ、職員一人一人が理念を共有しながら、理念に沿ったサービス提供を心掛け実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の防災訓練への参加、近隣の小学校との交流や近隣の理髪店の利用など地域との関わりを継続して実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流をもとに、事業所側からも地域住民の方々へ、認知症への理解や家族への理解へ繋げる支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、グループホームでも運営状況の報告、また市の職員、民生委員や家族様代表等からも様々な意見や、これからのサービス向上に向けた新たな実施方法なども取り入れ、今まで以上に開かれたグループホームを目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から運営状況、サービス向上への助言等の連絡を取り、市町村からも運営に関する事などの情報を、事業所に伝達して頂いているなどの協力関係は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除を掲げ、職員も研修などで身体拘束についての知識を身につけ、ご家族様から安全の為に要望があっても、身体拘束についての説明と事業所でも身体拘束排除でのサービス提供、支援をしている事を理解して頂いている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内外での研修で高齢者虐待についての知識を取り入れ、日々の支援の中でも介護職員の言葉使いや態度などにも注意しながら防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内外での研修等に参加をし、理解を深めながらサービス向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の相談時や入居契約時、解約時などで料金や改定に伴う内容の変更など、分かりにくい部分や疑問に思う点なども分かりやすく説明し、理解をして頂くとともにご家族様の経済的な面でも、家族様の現状を把握した上でご説明し、納得頂けるようにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時など、可能な限りご家族様の要望や意見を聞き出せるよう、日頃からコミュニケーションを図るとともに、運営推進会議等でも、参加して頂いた家族からも要望や意見を取り入れ反映している。また、意見など躊躇する家族様については個別に個室などや、話せる環境作りにも努めている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニットでのユニット会や毎月開催する職員会などで職員の意見や要望などを聞き入れ、運営やサービス向上に向けて意見交換を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員処遇改善制度を活かし、職員の仕事へのやりがいや頑張りへと繋げるようにしている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者やケアマネジャーによる施設内研修、施設外研修への参加と、学んできた知識や技術を職員が研修に参加できなかった職員へ伝え学べるように、伝達研修を実施するなどの支援をしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の事業所が行っている新人者研修や、事業所が運営している福祉学校への訪問等を行いながら、交流の機会を設けネットワークの幅を広げながらサービスの質の向上に継続して取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>傾聴、受容、共感の姿勢を常に怠らず、利用者からの要望、また家族からの意見があっても利用者本人の気持ちになり、親身に受け止めて関係を構築している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入前や導入時に、ご家族からのサービスへの要望や意見を十分に聞き取れる機会を設けている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族との話し合いの中からニーズや課題を導きだし、最適な支援を行う、また、馴染みが出来るように段階的にも支援ができるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常にコミュニケーションを図り、利用者一人一人が抱える不安などを軽減できるように支援し、その関わりのなかで、共に喜怒哀楽を共有しながら利用者が孤独にならないように、安心して暮らして行けるように関係の構築に努めている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図り、支援へのニーズや要望をケアに反映させるとともに、利用者と家族の関係が今まで同様に持てるように支援をしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の知人が来所された時には、少しでも関わりが持てるように支援したり、外出の機会があれば、ご家族様に本人が行きたい所を伝え行って頂いたり、今までの馴染みの関係が継続できるように支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや行事、日頃の家事活動などを通して利用者同士の交流が持てるように支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も適宜必要な情報や利用者、家族が困っている事へのフォローなどその時々状況に応じて支援をしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎月のユニット会で利用者の思いや要望について話し合い、困難な希望や要望でも本人目線で考え、それに近い内容で話し合い検討している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーに配慮しつつ、これまでの暮らしについて本人やご家族様から聞き取り、これまでの生活習慣などを出来るだけ崩さずに生活出来るように支援をしている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人一人の生活の流れの中で、本人の状況、状態等を把握し、その中から本人の出来る事や困難な事を見出し、ケアに繋げていけるように支援している。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ユニット会で職員一人一人が本人や家族から聞き取った要望、希望を基に計画を作成し、作成後も家族へ内容を説明し、新たな意見があれば取り入れ作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の利用者の状況・状態や生活状況を観察しながら、その中で気づきや変化などが見られた際にも職員間で情報の共有を行い、ケアへの工夫と取り組みを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者一人一人の状況を把握し、ニーズや状態に変化が見られた時など、事業所内で出来る事に捉われず、外部の様々な機能を活用し多機能的に支援をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣福祉施設や小学校での行事への参加や交流、近隣の理髪店への利用など、引き続き地域資源の活用と協働を続けながら、利用者の生活への楽しみが持てるように支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望に沿って馴染みのかかりつけ医への受診をしている。通院については、家族対応を基本としているが、利用者の心身状況についての手紙を作成し、利用者の状態に応じた適切な医療が受けられるように支援をしている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職は配置していないが、受診への同行、対応を職員も行っており、暮らしの中の気付いた事や今後気をつける点などを、病院にて看護師に相談し、情報を共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、グループホームでの生活状況や状態についての情報提供を行い、早期退院に向けて主治医や看護職との情報交換を行い、退院時にスムーズな対応及び連携がとれるよう関係作りに努め、家族の方とも適宜連絡や入院中の状況を相談している。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては対応はしておらず、基本的に医療機関との情報交換等によって連携をしながら取り組んでおり、家族へも重度化や終末期の対応についての説明をしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>地域で行われている防災訓練への参加で救急時の対応を学び、事業所でも定期的に訓練を行えている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域での防災訓練への参加、事業所でも災害時に備えての防災訓練の実施、また、夜間を想定した訓練の実施も予定している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の尊厳保持を理念に掲げ、人権尊重や接遇に関する内部研修を行い、日々の支援の中で言葉かけやマナー等、利用者のプライバシーを損ねず対応していくということの周知徹底をしている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の関わりの中で利用者個々の声を傾聴し、可能な限り一人ひとりの希望や要望に応じて支援を行いながら、自己決定が出来るよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的に利用者一人一人のペースに合わせて、支援をしている。意思疎通が困難な利用者に対しても、出来る限り状態に合わせて支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に沿って対応している。また、近隣の理美容店も利用したり、季節に応じて服装も合わせながらその人らしい身だしなみとおしゃれができるように支援をしている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食中毒などの観点から、現在は利用者と一緒に調理や盛り付けは出来ていないが、同じメニューを利用者と一緒に会話しながら食事をしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の状態や病状に合わせて、栄養面での食事量や味付けの工夫、水分量も日々チェック表を活用しながら支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを実施。本人で出来る方には出来る限り本人にして頂き、義歯装着されている方も義歯の洗浄、夜間も洗浄剤で漬け置きも行っている。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者一人一人の排泄パターンや状況を把握し、日中は出来る限りトイレで排泄が出来るよう自立に向けた支援をしている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量や日中の活動量を増やし、出来る限り自然排便が出来るようにしており、それでも便秘気味の方はマグミット錠などで排便が出来るようにしている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>週2回入浴日としており、利用者一人一人の体調や希望に応じて入浴時間や入浴日を変更したりと、工夫しながら支援をしている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者の習慣や状態に応じて休憩時間を設けたり、夜間の安眠が出来るように日中に散歩などして、活動量を増やしたりと工夫をしている。精神的に不安な状態の際には、話を傾聴したりと不安要素を排除しながら、安心して良眠できるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者一人一人の服薬されている薬の内容の把握と、服薬についての研修等も実施して、服薬に際しての作用・副作用の理解、病院受診時にも服薬時の注意する点などを相談しながら支援している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者一人一人の特技や好みを把握し、その人に合った楽しみ方を工夫しながら支援をしている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日光浴や散歩の機会、季節毎の外出できる機会を設けている。家族様と外出する時も、本人の希望の場所に行けるよう支援していく。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはホームでの管理となっているが、本人や家族の希望に応じて金額を決めて所持して頂いており、外出時の出先でも家族や職員が見守りをしながら、ご自分で買い物ができるように支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の状態や、現状で電話や手紙を書き家族とやり取りできる支援は出来ていないが、今後、利用者の状況を踏まえて再度実施していくように検討していく。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じて、利用者と職員と一緒にホールや居室への飾り付けを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースにはソファや畳スペース等を設けて、配置なども一人になれる場所や気の合った利用者で過ごせるなど、利用者一人一人が思い思いに過ごせるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで生活されてきた環境を出来るだけ維持できるように、使い慣れた家具等を持ち込み使用して頂き、なるべく在宅との異和感を感じないようにしている。また、必要な物については、その都度家族へ連絡を行い依頼をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室や共用スペースにはネームや飾り付け、写真等を貼り、分かりやすいように工夫をしたり、危険物なども排除し、出来る限り安全な環境で自立した生活が送れるように支援をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない